

表をごらんになれば分るように、年間巡回数が、耶麻コースを除いて、前年に比し、1回及至2回少ない。これは減った分だけ巡回数が少なくなったわけではなく、36年度における巡回方針が、隔月巡回ということで、その方針を忠実に守ったのに対して、37年度は、必ずしも隔月巡回にはこだわらないで、年間を通じて、どの月に巡回したらよい効果があるだろうか、そういった観点に立って、12月から3月まで、いわゆる農閑期をねらって重点的に巡回したからである。

しかし、利用の面では、巡回回数が少なかったわりには、大きく躍進した年であったように思う。利用人員で30.5%、利用冊数で36.3%の増加である。もし本年度1月から3月までに巡回した分も含めて、前年度と同じ回数にすると、利用人員、利用冊数は、ともに50%を越える。

読書傾向については、特に変わったと思われる点は見出せない。「本を利用する」ということよりも「本を楽しむ」という型がいぜんとして多いということがうかがえる。

昭和37年度巡回文庫更新図書分類別内訳

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
冊数	7 (12)	24 (11)	62 (34)	70 (68)	16 (16)	19 (13)	30 (33)	32 (10)	12 (12)	422 (387)	694 (596)

3. 貸出文庫

分館活動の充実については別項でふれているので、ここでは37年度の実績を掲載するにとどめたい。

分館に対する貸出文庫用図書の配本状況

	5月	6月	8月	10月	11月	12月	1月	3月	計
郡山分館	一册	70册	100册	一册	一册	一册	100册	一册	270
会津分館	270	—	—	—	—	—	—	—	270
田島分館	—	—	70	—	50	—	100	50	270
白河分館	—	—	70	—	—	—	100	50	270
平馬分館	—	—	70	—	50	100	—	50	270
計	270	140	310	50	150	100	400	200	1,620

る。

2. 巡回文庫

従来は青少年巡回文庫として、主として青年層に親しまれてきたが、本年度からは、利用範囲を一般成人層まで拡げて利用してもらうことにした。同時に利用地域からの要望もあって、各地ともそれぞれ5箱づつ増置した。

昭和37年度巡回文庫配布状況

出張所	配置文庫数	配置図書冊数
両沼	35 (30)	989 (854)
東白川	20 (15)	537 (428)
石川	20 (15)	559 (441)
双葉	35 (30)	983 (891)
計	110 (90)	3,068 (2,614)